

アグリビジネス創出へ研究会 上田の酒蔵・東御のブドウ畑視察

全国の農業法人や食品メーカー、卸売業などをつくる日本食農連携機構（東京）は12日、上田、東御の両市で農業関連産業（アグリビジネス）の研究会を開いた。長野県を含む中部地方など8県を活動エリアとする同機構中部支部が4月に発足し、県内で初めての研究会を企画。新ビジネスの創出につなげようと、同機構の会員ら約70人が上田市の酒蔵や東御市のワイン用ブドウ畑を視察した。

上田市の岡崎酒造では、社長の岡崎美都里さん（45）の案内で酒蔵を見学。参加者は純米吟醸や純米大吟醸を試飲した。東御市では、信州うえだ農協の子会社「信州うえだファーム」で研修を受けた新規就農者のワイン用ブドウ畑で農業経営の実態を学んだ。

同機構中部支部長で「信州里の菓工房」（上伊那郡飯島町）の鎌田真悟社長は「農協や生産者、農業法人が交流で

日本食農連携機構



上田市の岡崎酒造で日本酒を試飲する研究会の参加者と岡崎さん（左）

き、新しいビジネスを生み出す良い機会」。日本農業法人協会（東京）の山田敏之会長は「上田、東御は農協と生産者がうまく連携している印象を受けた」と話していた。13日は上水内郡飯綱町のワイナリーやブドウ畑を訪れる。